

天拝山を経て M さん墓参山行

【報 告 者】 Dr

【日 時】 2018 年 2 月 25 日

【天 候】 小雨

【参 加 者】 T 橋(CL)、Dr、I 丸、K 崎、みっちー、K 田、S 藤、T 田、Y 中、I 藤 (母)、I 藤 (子)、M 原 (会員外)、(N 谷夫妻、I 田、I 橋)

《コースタイム》

11 : 30 天拝公園～12 : 15 天拝山 12 : 25～12 : 43 分岐～境界線上の尾根～13 : 30 大宰府メモリアルパーク 13 : 50～14 : 50 天拝公園

《 報 告 》

M さんが亡くなって 2 年。M さんの墓は、大宰府メモリアルパークにある。墓参だけなら車道伝いに行けるが、これでは面白くない。そこで、T 橋さんのアイデアで、天拝山からメモリアルパークに伸びる尾根をつたって、墓前に至ることにした。

集合は天拝公園。小雨の中を出発する。いきなりリーダーから読図の指示がでる。里山は深山より読図が難しい。予想通り、林道に枝道、散策路、砂防堤の工事用道路、加えて猪道が見える。あまり深く考えなければ一番きれいな道路を道標に従って進んでよいのだが、それではあまりにもおもしろくない。適当な間道を見つけて、ショートカットした。九州自然歩道に指定されている道を進み、荒島神社を通り、最後は、階段を登り、天拝山に到着。

案内板では、菅原道真が自分の無実を天に訴えるため天に祈ったと言う伝説がある由緒ある山である。大宰府政庁の南南西にあたるこの山は、政庁から見晴らすと、正面近くに見える山であったであろう。道真がこの山で天に救済を祈る場所としたことも頷ける。

天拝山からは、いきなり難路である。いや、道はしっかりしている。が、入り口がわかりにくい。休憩所の建物の裏側に回ると道標があった。なければ、多くの人が迷うであろう。見晴らしのない自然林の道を尾根に沿って進む、途中 2 か所北側に谷筋を下る道の分岐がある。地図上では、南から尾根を通して出会う道があるが、これは見いだせなかった。

3 つの尾根がであう地点について。九州自然歩道は南へ伸びているが、われわれは、北に延びる尾根に進む。ここも丁寧に標識が立ててあり、間違えることはない。ここからは、幾分荒れた尾根道で、赤テープを頼りに進む。猪の掘り返した穴も散見される。途中尾根から右に外れ、右旋して谷筋を下るしっかりした道があり、地図と合わないと思いながら 50m 程度進んだら、T 橋君から、道違いのコールがあった。明瞭ではない道を進んでいるときに里道とであると、安易にそれに進んでしまい、道違いをするという初心者のようなミスをしてしまった。尾根に上がりなおし、尾根にそって右折すると左樹間に墓の海が見えた。ある種壮大な風景である。さらに進むと天拝山参拝所という舞台？に出た。メモリアルパ

一クに墓参に来た人がついでに、ここまで登り天拝山を拝むためのものようだ。そこから尾根を下り、二つ鳥居を抜けてメモリアルパークについた。

Mさんの墓は、樹木葬の302区13番。葬儀のときには、樹木葬の端っこだったが、すでに新しい区画が広がり、周りを墓に囲まれた風情となっている。予定の時間より遅れたので、待ちかねていたI田さん、N谷さん夫妻とともに、墓参した。Mさんのことを直接知らない人もふえ、伝説のM塾の塾生も少なくなってしまった。

墓や遺影を見ながら、Mさんの子供のような茶目っ気と笑顔、猿のような俊敏さと身の軽さ、仙人のような山勘、優しい口調で語る経験談、仲間をかばうしっかりとした主張を思い出していた。ピナクルにとっても、私にとっても、これほどまでの器量のある人を失ったことの損失の大きさを、改めて思い知った。

帰りは、いろいろ意見もあったが、再度尾根にあがり、来た山道を天拝公園まで歩いた。

下山後、Mさんの思い出を一層分かち合うために、『文治』への道を急いだことは、言うまでもない。

